

駒ヶ根市文化財

名称	安楽寺の三門
種別	建造物
指定	市・有形文化財（平成 23・12・27）
所在地	上穂栄町 2145
所有者	安楽寺
説明	<p>鶏頭山(けいとうざん)安楽寺は、浄土宗鎮西派の寺院で、天文 2 年(1533)の創建と伝える。</p> <p>安楽寺三門は、三間一戸楼門(ろうもん)(間口 6.3m、奥行 3.5m)で、屋根は入母屋造(いりもやづくり)、銅板葺(元こけら葺)とする。建立は天保 11 年(1840)とされている。三門二階には明治 8 年(1875)の屋根葺替棟札が保存されている。</p> <p>造営に関する史料としては、文化 8 年(1811)の本堂普請請負証文(駒ヶ根市立博物館蔵「赤須町文書」所収)があり、このときの大工は(三木)繁右衛門(木曾福島)、又吉であった。内容は欄間彫刻などの造作の請負なので本堂全体の棟梁であったのかは不明である。</p> <p>三門の棟梁は不明であるが、本堂に三木繁右衛門が関与しているので、三門も三木繁右衛門あるいは木曾の大工であった可能性が高い。彫刻が立川流に類似するのは、諏訪神社本殿の棟梁中村伝左衛門善重(宮越)は立川流の立川和四郎富棟と交流があり、諏訪神社本殿の造営に加わっていた三木繁右衛門らもその影響を受けたからではないだろうか。</p>



安楽寺三門 正面外観



中央の目抜き龍